

# 事業実施報告書

小学生わくわく里山キャンプ  
2013夏休み・ふるさとステイ！

2013年9 月吉日

# 事業実施報告書

認定NPO 法人地球市民の会  
理事長 山下 雄司

## 1. 団体名

主催：認定NPO 法人 地球市民の会

後援：佐賀県、佐賀市、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、福岡市教育委員会

協力：株式会社 増屋 様 ヤマダ電機福岡賀茂本店 様

## 2. 事業名称

小学生わくわく里山キャンプ 2013夏休み・ふるさとステイ！

## 3. 事業実施経過

4 月 事業実施地にて事業説明、日程調整、協力依頼

事業計画打ち合わせ

5 月 事業実施地代表者とのプログラム打ち合わせ

プログラム作成、参加者募集チラシ作成

日程の調整

6 月 佐賀県・佐賀市・佐賀県教育委員会・佐賀市教育委員会・福岡市教育委員会への後援  
依頼

佐賀市内全小学校へのチラシ配布、市外の学校へのチラシ配布依頼と配布

福岡市内（早良区・城南区・南区・西区）小学校へのチラシ配布

各種手配・調整（バス借り上げ、食事手配、講師依頼と手配等）

学生サポーター募集

7 月 事業運営スタッフやサポーター事前打ち合わせ

参加者確定

参加者の各家庭への通知書発送と手続き（保険、健康調査票管理、参加費手続き等）

サポーター用・参加者用パンフレット作成

事前準備

## 4. 実施内容

### (1) 目的

当法人は2009年より佐賀北部の山間部において地元の方々と協働で地域づくりを行な

ってきた。その中で住民との話し合いを通してもっと多くの方に来てもらいたいという要望があり、小学生を対象としたキャンプ事業立案に至り、今回で2回目の実施となる。

この事業は自然を通し、地元の方々と触れ合い、学びのある青少年の健全育成を目的としている。

町（都市）部に生活する子どもたちが、日本の自然を支え、日本人の「こころ」の原風景である中山間地の里山の魅力を感じ、その意味を学ぶ。

見知らぬ地で地元の人との交流を通すことで世代を超えた人への関心を高め、今後も断続的に里山を訪れたり、地元の人に会いに行くなどの絆づくりも期待できる。

## （2）概要

今回、この事業を実施するにあたり、小学校全学年を対象にし、佐賀市内と福岡市（早良区・城南区・西区・南区）から募集をかけたところ、総数171名の申込があった。そして7月26日から8月1日（木）までの期間を佐賀市三瀬中鶴地区で実施し、8月3日（土）から8月9日（金）までの期間を佐賀市富士町関屋地区で実施した。（8月5日は大雨のため中止）期間中は佐賀市役所または早良区ヤマダ電機テックランド福岡賀茂本店第3駐車場を集合・解散場所とし、毎日送迎の車を手配した。

子供たちの滞在日は一泊二日から二泊三日までとし、期間中どの日程からでも参加可能とした。プログラムはAコース（里山自然体験どっぷりプラン）、Bコース（里山の暮らしを楽しむプラン）の2コースを準備し、日替わりでA・Bコースを展開し、両コース共に事業実施地である中鶴・関屋集落ならではの資源を生かした自然体験活動プログラムを実施した。

事業運営のサポーターとして、高校生以上の男女の募集を募った。

## （3）日程

①三瀬中鶴プラン：7月26日（金）～8月1日（木）（7日間）

②富士町関屋プラン8月3日（土）～8月9日（金）（7日間）

※8月5日（月）は大雨のため中止とした

## 5. 事業実施地と活動内容

### （1）三瀬中鶴地区

施設は中鶴公民館で、参加者児童数は二泊三日の参加者を含めた延べ人数で92名、運営スタッフは毎日7～9名で実施した。中鶴自治会の地域の方々のご協力があり、食事の準備や安全管理面でのサポートを頂いた。

### （2）富士町関屋地区

施設は関屋公民館で、参加者児童数は二泊三日の参加者を含めた延べ人数で79名、運営

スタッフは毎日7～9名で実施した。関屋自治会と地域の方々のご協力があり、安全管理や「命の授業」で鶏の捌きの実施などのサポートを頂いた。

※8月5日（月）は大雨で佐賀市内で警報も出ており、当会として安全面を鑑み、同日のキャンプの開催は中止とした。参加児童の父兄に連絡を取り、事情を説明し、殆どの参加者は別日へ移動していただいた。

活動時は4～7名程度の班を複数つくり、各班にサポーターが1名ないし2名付くようにした。また、班長・保険係・生活係・食事係の役を設け、子供達の責任感の育成と自発的な行動を図った。

#### ① Aコース（里山自然体験どっぷりプラン）について

自然体験をメインとし、魚釣りや昆虫採集、懐中電灯なしの暗闇探検を行った。魚釣りは初体験の児童も多く、エサ探しから始まり、生きたミミズを釣り針に通す作業は嫌々ながらも頑張っていた。その分、魚が釣れた時の喜びは大きかったようで、最終日に書かせた感想文でも魚釣りを題材にする子が多く見られた。

暗闇探検の目的は、普段、街灯に囲まれた生活をしている子ども達に、本当の夜の暗闇について、また暗いからこそ感じる自然の様々な風景や星空について、体感してもらいたいと思い企画した。街灯のない暗闇の中を、懐中電灯を付けずに散策することに、当初は緊張していた子ども達であった。だが次第に暗闇に慣れてくると、ホタルや川の音など、聞こえてくる自然界の様々な表情や一面の星空に大変喜び、楽しそうに活動していた。子ども達は最初こそ暗闇を怖がっていたが、一緒に花火を行い、蛍を見つけたことによって暗闇の良さを感じ、子ども達同士の親睦も深まったようだった。

#### ② Bコース（里山の暮らしを楽しむプラン）について

地元の方のご厚意により農園でのオクラやピーマンなどの有機野菜の収穫を行い、ピーマンは生で食べられるほど甘く、苦手な野菜への印象が変わる子供が多いようであった。朝、すり鉢で山芋を搗り、冷汁を作って食べた。ご飯にかけて食べる冷汁は初体験の子供が多く、オクラやシソなどトッピングを楽しんでいた。



虫捕り（セミ捕り）に夢中でした



山芋をすって食べるのが初めての子もいました



人参の種まきを行いました



毎朝のラジオ体操は欠かせませんでした

尚、両コースに共通して以下の活動を行った。

#### ・山と海のつながりについての話し

毎日、地元の方々やスタッフによって、山と海の繋がりについての話をしてもらった。市街地の生活は山の人たちの生活や管理によって、きれいな水が海へ流れていっていることを学んだ。山の問題は市街地、海側すべての問題につながることを参加者は知ることができた。

#### ・清流川遊び大会

キャンプ初日、昼食をとった後に昼過ぎより実施した。三瀬中鶴地区は中鶴公民館の裏手に流れる川で遊び、流れは緩やかだが、川幅は5~6mあり、深みがあるところにはスタッフを配置し安全管理の徹底に努めた。

富士町関屋地区は公民館前に流れる川幅2m程のクリークで活動を行った。透明度が高く、メダカやゲンゴロウなどの水生生物が多く見られ、生き物採集に熱中する子どもも多かった。水深は60cm程で参加児童にとっては丁度良い深さであった。川と関屋公民館の間に道路があるので、車の往来に注意した。

こちら今回のキャンプのメイン企画の一つであり、子どもたちが書いた感想文では川遊びの思い出がとてもよく印象に残っているようであった。



一番の思い出になった川遊び！初めて自然の川に触れました。

#### ・命の勉強

今回のキャンプのメイン企画の一つで、初日の夕方に実施した。子供達の中には切り身になった肉や魚しか知らず、自分たちが日ごろ食べているものはどのような工程で作られているのか、また、命ある生き物を食べるという事はどういう事かを学んでもらう為に今回は、川で釣った魚を捌いたり、富士町では毎日、地域の方の協力で生きた鶏を捌き、調理までを行った。（鳥の捌きは刺激が強いため、見る事ができない児童に対しては食育の紙芝居を屋内で読み聞かせた。）鶏肉が食べれなくなるような衝撃を受けるか懸念されたが、実際は殆どが参加し、湯通しした鶏の羽をむしる作業の手伝いも行った。

富士町では鶏を捌き、焼き物や揚げたりし、骨も出汁を取りスープを作った。



なかなか釣れず・・・



釣った魚はすべていただきました！

#### ・勉強タイム

参加プログラムの最終日、午前中の一時間ほどを各自持参した宿題の勉強時間に充てた。サポーターとして参加している学生や社会人の方に勉強を見てもらい、学習指導を行った。

#### ・山の創作体験

最終日、勉強タイムを終えた後、北山少年自然の家より協力の下、日替わりでぶんぶんゴマと竹笛の工作を行った。竹笛制作では8cm程の細い竹を小刀で削る作業は力が要り、低学年は怪我をする恐れがあった為、サポーターが行った。コマや竹笛を作った児童たちはどのようにすればよく回るか、どこで音が出るかを試行錯誤し、思い思いのイラストを自作の玩具に描いていた。



工作づくり、みんな順番待ち

ぶんぶん駒うまく作れました～

#### ・そうめん流し

最終日に昼食を兼ねて実施し、中鶴地区では7月26日からの参加組が、流し台・竹のお椀を地域の方と一緒に作り、期間中繰り返し使用できるようにした。そうめんの他にミニトマトやブルーベリー、キュウリやオクラなど地元で収穫された食材を流し、大変好評であった。また素麺流しの際には子ども達自身もおにぎりを握った。自分達で握ったということもあり、「いつものおにぎりより美味しい」とおかわりをして食べている様子であった。

#### ・清掃活動

清掃活動に関しては、期間中、自分達が使ったところということで、自ら進んで一生懸命清掃活動に臨んでいた。各班決められたエリアを掃除し、高学年が主体となって班員を引き連れて頑張っていた。

#### ・どんぐり村・北山少年自然の家

各コースの最終日に公民館を出発した後、2時間程度のアクティビティを実施した。キャンプ最後のプログラムである。日差しが強いため水分補給や体調の変化に注意した。中鶴地区の場合はどんぐり村へ行き、ローラースライダーや子供プール、動物エリアで活動した。関屋地区の場合は北山少年自然の家へ行き、施設内でのウォークラリーを主に行った。最終日には子ども同士の輪もしっかりとしたものとなっており、上級生が下級生の手を握り先導する場面も見られた。

## 6. **事業の反省と総括**

### (1) 反省

#### ① サポーターへの事前研修不足

事前研修内容は口頭での説明会のみであったため、スタッフとしての動き方や、子ども達との関わり方のイメージが浮かばず、当日の動き方に混乱する学生もいた。事前研修内容を充実させることでサポーターと協働で、より良いプログラムを作ることが出来たのではないと思われる。

#### ③ 忘れ物の確認不足

今回のキャンプでは帽子やサンダル、水筒、タオル等の忘れ物が多かった。指さし確認をさせたり、サポーターと一緒に確認するなどの対応が求められる。また、一時的ではあるが、前日からの宿泊組と当日新しく来た宿泊組の荷物が公民館内で一緒になることがあったため、混同しないように公民館の隅に分けるようにした。

#### ④ 北山少年自然の家でのアクティビティについて

北山少年自然の家におけるアクティビティで、屋外でのウォークラリーも実施をしたが、距離が長いことやサポーターの目が届きにくい、給水が難しいなどの問題が発生したため、次回実施までにサポーターの増員や班の細分化、屋内のみでの実施など改善策が必要になった。

#### ⑤各コースのPRについて

今回はAとBの2コースを用意したが、応募の段階ではAコースが人気となっていた。その原因として暮らしの生活体験よりも自然体験で活発に動き回りたいからという要望が多かった。応募がAコースに偏った一因としてBコースでも同等の自然体験ができるというアピールが不足していたことも考えられる。

### (2) 総括

この事業は、地元住民のたくさんのご協力を得たからこそ、実施することが出来た。当事業の成果として第一に、大きな怪我もなく、参加者である子ども達がこのキャンプを通じて、精神面で大きな成長をしたことがあげられる。例えば食事面に関して、いつも以上におかわりをして食べる様子や、苦手な食べ物を周りの子ども達と切磋琢磨し、頑張っ て食べる様子が見受けられた。さらに、茶碗洗いなどの片付けも子ども達自身で行った。最初は洗い方に苦戦していたが、徐々に上手になり、最終日には低学年でも上手に洗えるようになった。人見知りであったり、一人で参加した子供も初日は緊張していたが、一緒に生活していく中で友達を作り、笑顔が見られるようになっていた。このように自主的に集団生活行動を、積極的に取組んだという、当事業の彼らに与えた影響は、大きいものであったといえる。また自然体験活動においても、普段の生活では、なかなか経験できない現代の子ども達にとって、新鮮な体験かつ自然の面白さや人と自然との共生を考える貴重な体験であったといえる。鶏の捌きなどを体験した子供達は残さず食べることの大切さ、食事の合掌の意味を理解したのではないかと感じた。また、日常のお世話をしていただいた地域住民との交流は、子ども達にとって良い機会となったと感じる。

第二の成果として、この地域は過疎化・高齢化の集落であるが、子どもたちの声などが響くことで地域内では自然と集まる場所になり、年配者の人たちも自然と笑顔になっていた。当事業実施期間中、地域住民が「久しぶりに子ども達の歓声を聞いた」「久しぶりに地元が賑わった」など、子ども達の滞在を非常に喜んでいただいた。また、喜んでいただけただけでなく、収穫した野菜を持って立ち寄ってもらったり、近くで射止めたイノシシを子ども達に見せに来てくれた。さらに、活動プログラムの講師として地域の方々に参画していただき、集落の自然資源を生かした流しそうめんの道具作りや魚釣りなどといった自然体験活動や、地元で取れた野菜を使った地産地消料理づくりなどを、子ども達に指導してもらった。このように地域住民にとっても、集落の良さを改めて見つめ直す機会となったと共に、子ども達と心の交流を図る良い機会になったといえる。



キャンプ終了後、参加者に感想文を書いてもらった。その中では、「楽しかった。来年もまた参加したい」「もっと長く泊まりたかった」「また来たい」という積極的な声が多くあがっていた。また「自然は凄いと思った」「初めて魚釣りをした」「こんなにキレイな星が見れて感動した」など自然体験への感動を綴る子供達も多く見られた。

以上のことから、当事業実施の目的であった、都市農村交流による地域活性化、そして学びある健全な青少年育成のための事業として、キャンプ事業の意義を感じることが出来たといえる。この事業を一時的な事業とせず、今後も継続して行うことで、都市農村交流の意義を佐賀県内・福岡市内で高め、推進させてゆきたい。

最後に、当事業にご協力いただいた皆様に大変感謝を申し上げます。

## アンケート結果

佐賀県 三日月小学校 4年生 女の子

・こんな生活は初めてでした！普段は、当たり前のように生活していたことと比べると大変だと感じました。でも、普段はできないことなのでとても楽しかったです。

佐賀県 附属小学校 1年生 女の子

・川で遊んだことは初めてのことでした。海でも遊んだことないので最初はドキドキしていました。でも、みんな優しくとても楽しかったです。

佐賀県 鍋島小学校 3年生 男の子

・魚釣りは楽しかったし、その後、食べた魚も美味しかったです。鳥を殺して食べるというのは初めてのことでした。いつもしてくれている人がいるから僕たちも食べれるということが分かりました。

福岡県 内浜小学校 4年生 女の子

・山で遊ぶのは初めてでした。泊まれるか不安でしたが、1年生の子もいたので頑張らなきゃと思いました。クーラーがなくても涼しくていい経験でした。

福岡県 南片江小学校 3年生 女の子

・テレビもなく、クーラーもない生活は初めてでした。でも、友だちもたくさんできて全然問題なかったです。いつもよりたくさん食べました。また、行きたいです。

福岡県 壱岐小学校 5年生 女の子

・夜の暗さは正直怖かったけど、みんなとの生活が楽しくて後から気になりませんでした。そうめん流し、川遊びが楽しかったです。また、行きたいです。